

パリのレンタサイクルシステム「Velib」

1. 導入目的

パリ市（フランス）では2007年7月15日より、レンタサイクルシステム「Velib」（ヴェリブ）を開始した。「Velib」とはVelo(自転車)とLiberte(自由)の2語を組み合わせた造語である。パリ市内の交通渋滞緩和のため、環境に優しい自転車の利用を促進し自動車の利用を減らし、近郊から市内中心部までは電車を利用、その区域内はこのVelib利用を目指したパリ市の交通政策である。同システムは先にリヨン市でVelo'v(ヴェロブ)として導入されている。

2. 設置状況

パリ市では7月の開始当月だけで50,000人が1年契約を結び、8月には1日1,200人のペースで契約者が増えたとも述べている。2008年までに20万人の登録を見込んでいる。開始当初には市内750ヶ所のサービスポイントと10,648台の自転車が設置され、今年9月には1,000ヶ所14,197台に増加、およそ300mおきにステーション設置を目指し今年12月末までに1,451ヶ所20,600台とする計画である。

実際、市内を歩けばいたるところでサービスポイントを簡単に見つけることができる。場所によっては殆ど自転車が出払っているところもあった。多くのサービスポイントは従来の駐車スペースを転用したものであり、僅かの場所があれば設置が可能である。

また、Velibに乗っている人々も街中で良く見かけた。住民、観光客ともに幅広く利用されている。返却時にそのサービスポイントが満車で無料の30分が過ぎそうな時は、登録番号を入力すれば他のポイントへの移動時間が15分与えられる。パリ市では30分程度の短時間の移動手段としての利用を促進したい考えであり、その点を十分に配慮したシステムといえる。



パリ市内、サービスポイントの様子

3. 登録及び利用方法

利用形態は三種類あり、それぞれ登録料は1日：1ユーロ、1週間：5ユーロそして1年：29ユーロである。使用料は30分以内無料。以降60分まで1ユーロ、90分まで2ユーロ、91分以降は30分毎に4ユーロずつ課金される。支払いはクレジットカードのみ。種類はVISA、

Master Card、JCB、AMEX の 4 種類である。

1 年登録の場合は、事前に申し込みを行い専用カードを入手する必要があるが、貸出時には固定スタンド上部にカードをかざすだけで、ランプが緑から赤にかわり簡単にロックを解除できる。短期間の 1 日と 1 週間の場合は、サービスポイントにある機械(ボルヌ)のモニターの指示に従い操作、クレジットカードを挿入し 150 ユーロの保証金支払いを受諾後、利用番号と暗証番号が印字されたカードを受取り、番号を入力後ロックを解除する。返却はスタンドに自転車を固定しランプが赤から緑に変わったのを確認すれば完了である。

モニターには仏語のほか英語、独語、伊語、スペイン語に対応し日本語もある。これは Velib が観光客の利用、特に日本からの来訪者も想定している証拠であり、クレジットカードに JCB が含まれるのも同様の理由である。なお登録時の保証金は返却が完了すればカードから引き落とされることはない。



貸出機 (ボルヌ)



Velib 正面



自転車固定の様子



ロック部分 (自転車側)

ステーションは全て無人で 24 時間いつでも利用できる。ただし、年齢制限があり 13 歳以下は利用できず、14~18 歳の場合は成人の了承が必要となっている。また身長が 150cm 以上あることも条件となっている。

4. 自転車の仕様

自転車はシティ車一種類のみ。専用のデザインで前後ライトは自動点灯、シマノ製の内装3段ギヤ付きである。自転車の色はリヨンの赤に対して街の景観に併せ落ち着いたグレー系の色である。製造は地元フランスのメーカー・ラピエールが行っている。この自転車は耐久性を重視した設計となっており、自転車の整備は定期的に行われている。今回は整備員が修理作業中の姿にも出くわした。この自転車はチェーンが外れにくい構造になっていると聞いていたが、チェーンが外れたままの自転車も見かけた。

更にボルヌが壊されポイント全体が利用中止となっている所も見た。また、ボルヌや固定装置の不調等、細々とした機械上のトラブルも起きている。アイデアやデザインは優れているが、設備機器など品質、運用面で更なる改善の余地がある。現在でも緊急のトラブルに対処するホットラインはあるが、フランス語のみでなかなか繋がらないと不満の声が利用者から上がっている。いかに早くトラブルへの対応ができるか、その体制作りが更に求められる。



修理中の整備員



チェーンが外れたままの自転車

5. これから課題と将来性

システム開始に当たっては様々な意見が出ている。本当にこれで自動車の利用が減るのかという懐疑的な意見や、パリ市内を自転車で走ることを危険視する声もある。また自転車利用者の増加により、交通規則に明るくない利用者による走行マナーの問題も懸念されている。一番の心配は交通事故の増加であるが、これはVelibのこれからの運用実績と交通事故との因果関係から判断するしかない。

このような大掛かりなサービスを安価な利用料で提供できる最大の理由は、費用負担の問題を解決したことである。パリ市は大手広告会社 JC Decaux 社と市内 1,600ヶ所の広告パネル設置の権利を優先的に与える契約を結び、その収入でレンタサイクル運営費用を賄っている。すなわちパリ市は新たな納税者負担を強いることなく、このレンタサイクルを運営しているのである。このレンタサイクルシステムの成否は、欧州のみならず世界各都市から大変な注目を集めている



サービスポイント脇の利用案内板



利用者の様子

Velib ホームページ ; <http://www.velib.paris.fr/>

以 上

(デュッセルドルフ事務所)